

畦畔における斑点米カメムシ類の発生量が多い

～ 出穂期10日後頃の薬剤散布と散布後の草刈りを徹底してください ～

1. 現在までの発生状況と今後の発生予想

7月4～5半旬の水稲抽出ほ場調査（80地点）における畦畔での斑点米カメムシ類のすくい取り数（50cm、40回振）は8.4頭（平成5.0頭）で多く、発生地点率は40%（平成37%）で平成並だった。そのうち、アカスジカスミカメ（以下、アカスジ）のすくい取り数は6.6頭（平成2.6頭）で多く、発生地点率は20%（平成19%）で平成並だった。アカヒゲホソミドリカスミカメ（以下、アカヒゲ）のすくい取り数は1.7頭（平成2.4頭）、発生地点率は30%（平成29%）でいずれも平成並だった（表-1、図-1）。

同調査における畦畔雑草の発生状況では、出穂したイネ科雑草が29%の地点で確認された。また、出穂したイネ科雑草や新葉が伸びている雑草がある畦畔の斑点米カメムシ類のすくい取り数は、除草が徹底されたほ場と比較して多かった（表-2）。

7月27日に仙台管区气象台から発表された東北地方1か月予報によると、向こう1か月の気温は高く、降水量はほぼ平成並と予報されている。

以上のことから、今後、水稲や水田内雑草の出穂を契機に、斑点米カメムシ類の水田内への侵入量が多くなると予想される。

2. 防除対策

- 1) 水稲の出穂期（ほ場全体の40～50%が出穂した日）の把握に努め、出穂期10日後頃にアルバリン剤又はスタークル剤を、畦畔を含めたほ場全体に茎葉散布する。特に、本年は水稲の出穂期が早まると予想されるため、散布時期に注意する。
- 2) 1) の散布当日から7日後までに畦畔や農道の草刈りを必ず行い、斑点米カメムシ類の増殖源となるイネ科雑草を除去する。
- 3) 水田内に出穂したノビエやホタルイ類等が発生しているほ場、斑点米カメムシ類の発生源となるイネ科植物が主体の牧草地や休耕田等に隣接しているほ場では、出穂期10日後頃の薬剤防除に加えて同24日後頃にもエクシード剤又はキラップ剤を茎葉散布する。ただし、セジロウンカが多発しているほ場では、同時防除が可能なエクシード剤を選択することが望ましい。

3. その他

- 1) 殺虫剤を散布する際は、養蜂業者などと連携をとり、蜜蜂などへの危害防止に努める。
- 2) 巣箱の設置場所が近接している場合は、蜜蜂が水田に飛来してくることがあるので、蜜蜂の活動が最も盛んな時間帯（午前8時～正午）を避け、できるだけ早朝又は夕方に農薬散布する。
- 3) 農薬飛散による周辺農作物への影響が懸念される場合は、飛散しにくい散布ノズルを使用する等の飛散防止対策を講じる。

4. 資料

表-1 畦畔での斑点米カメムシ類すくい取り結果(7月4~5半旬)

	斑点米カメムシ類		アカスジカスミカメ		アカヒゲホソミドリカスミカメ	
	すくい取り数(頭)	発生地点率(%)	すくい取り数(頭)	発生地点率(%)	すくい取り数(頭)	発生地点率(%)
2023	8.4	40	6.6	20	1.7	30
平年	5.0	37	2.6	19	2.4	29
概評	多	並	多	並	並	並

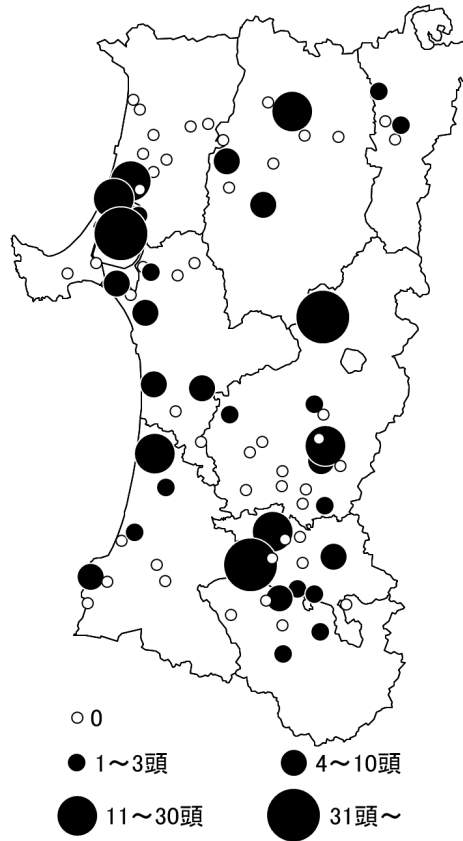


図-1 畦畔における斑点米カメムシ類のすくい取り数(7月4~5半旬)

表-2 畦畔雑草の発生状況別すくい取り数(7月4~5半旬)

雑草の発生状況	雑草発生状況別地点率(%)	斑点米カメムシ類(頭)※	アカスジ(頭)	アカヒゲ(頭)
除草が徹底されている	32	0.2	0.1	0.1
除草しているが、新葉が伸びている	39	2.3	0.6	1.6
出穂しているイネ科雑草がある	29	22.6	19.2	3.2

※斑点米カメムシ類のすくい取り数は、アカスジ、アカヒゲ以外の種も含まれる。

【 問合せ先 】

秋田県病害虫防除所 TEL 018-881-3660
 秋田県農業試験場 TEL 018-881-3326
 掲載HP <https://www.pref.akita.lg.jp/bojo/>